

令和3年度刈谷市スポーツ推進審議会 議事録

1 日時及び場所

令和3年9月15日（水）14時00分～15時20分

刈谷市役所7階 701会議室

2 出席した委員 永田靖章、竹内晋岸、辻村享、鈴木裕子、太田秀樹、江坂正和、加藤晋也、

廣住優子、山口博子、清水加代子（以上、敬称略）

3 事務局 教育長、教育部長、スポーツ課長、課長補佐、業務係長、指導係長、普及係長、普及係担

当者2名

4 議 事

議題1 第3次刈谷市スポーツマスタープランについて

(1) 取り組みの評価について - 資料2 - ①・②・③

(2) 第3次スポーツマスタープランの見直しについて - 資料3

議題2 令和3年度事業実績及び今後の事業について

(1) 刈谷市ホームタウンパートナー事業の取り組みについて - 資料4

(2) 国際スポーツ大会等の誘致について - 資料5 - ①・②・③

ア オリンピック聖火リレー、パラリンピック聖火フェスティバルについて

イ カナダ女子バスケットボール代表チーム事前キャンプについて

ウ その他(刈谷ゆかりの選手等のオリンピック大会の成績について)

(3) 指定管理者選定について - 資料 6

5 議事内容

議事進行：加藤スポーツ課長

○あいさつ

・金原教育長

・バスケットボール女子日本代表が銀メダルを獲得したことは、歴史的快挙として大きくメディアに取り上げられ、

日本代表のキャプテンとしてチームを引っ張るデンソーアイリス高田真希選手はじめ選手たちの姿に大変感動した。改めて、スポーツの持つ力の素晴らしさを感じた。

・8月の終わりにバスケットボール女子銀メダリストの高田選手、赤穂選手、東藤選手、知花コーチが結果報告のため市長のもとを訪れた。また、バスケットボール男子日本代表のシェーファー アヴィ幸樹選手とレスリング女子で金メダルを獲得した向田真優選手が志土地コーチとともに市長を訪問し、選手たちの話から気持ちの強さや目標の高さを感じた。

・刈谷市はバスケットボール女子カナダチームの事前キャンプを受け入れた。子どもたちとのオンラインの交流やカナダ選手団のおもてなしなどを行い、非常に良い経験になった。

・8月12日に東京2020パラリンピック聖火フェスティバル刈谷市採火式を刈谷特別支援学校で行った。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で参加予定だった子供たちが参加できなくなり残念だった。

・今回の審議会は、第3次刈谷市スポーツマスタープランの昨年1年間の評価をしていただく。コロナ禍において、スポーツを取り巻く環境が大きく変わり、スポーツに親しむことが難しい状況ではあるが、本市におけるスポーツ振興に関するご意見をお願いしたい。

・永田会長

昨年度より2年間の任期で、このスポーツ推進審議会の会長を務めさせていただいております『永田』でございます。審議会の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。本日は、委員の皆様におかれましては、公私ともにお忙しい中、ご出席いただき、誠にありがとうございます。

平成23年6月に制定されたスポーツ基本法においては、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことが人々の権利である」とされ、スポーツは、青少年の健全育成や、地域社会の再生、心身の健康の保持増進等、国民生活において多面にわたる役割を担うなど、現代におけるスポーツの基本理念を提示し、国、地方公共団体、スポーツ団体等の連携・協働によって、その基本理念の実現を図ることとされています。

こうした中で、この「スポーツ推進審議会」は、刈谷市のスポーツ推進計画である『スポーツマスタープラン』やその他のスポーツ推進に関する重要な事項を調査審議するため、条例により設置しております。

刈谷市では2019度からスポーツ振興の新たな指針となる「第3次刈谷市スポーツマスタープラン」を推進しておりますので、条例に則り、本審議会では、今後、現行の第3次プランの進捗管理やスポーツ推進に関すること全般をテーマとして進めてまいります。

私ども審議会委員が広く市民の声を聴き、市民・各種団体の代表として、それぞれの立場から意見を出し合い、刈谷市のスポーツ振興に少しでも携わることができればと思っておりますので、どうぞ、委員の皆様には、

ご協力を賜り、活発に議論をいただきますことをお願い申し上げまして、私のご挨拶とさせていただきます。

議事進行：永田会長、説明者：普及係長、業務係長、指導係長

議題1 第3次刈谷市スポーツマスタープランについて

(1) 取り組みの評価について

【事務局】資料2－①・②・③を説明

【辻村委員】 プログラムの充実の参考値があるが、令和2年度から参加数が減少していることは、現在コロナが原因であると周知されていると思うが、後に資料を見たときになぜ減ったかということが分かるように備考に記載するとよい。

【鈴木委員】 今後の方向性という面では、コロナがいつまで続くのか誰にも分らない状況である が、新しいやり方やもとの状況に戻った際に今まで通りの形に戻すことが理想なのか、または今までにない形を取り入れていくのか、今後の方向性を考える上で検討してもよいのではないかと。また、インターネットやSNSなどの普及により便利になっているが、情報を取りにいかないと手に入らない状況であり、情報を受け取る人が限定的になってしまう可能性がある。多くの人の目につく冊子のようなものがあるとよいと思った。うまく組み合わせた情報提供していく必要がある。

コロナ禍が終わったときにどういう方向性にもっていくかを考えていくべきだと思う。

【永田会長】 コロナ禍は初めての経験であり、それが今後どう影響するのか予測しがたい。そういった中で今の意見をどう反映するか。もう少し様子を見ないと、専門家ですらはっきりとした方向性を見いだせない。

【廣住委員】 こちらに来る際に最近運動量が減ってきているので階段を上ってきたが、かなりきつく、若い時と同じような運動はやりにくい状態であると感じた。今年度のかきつばたマラソン大会は、オンラインで開

催すると聞いたが、運動の仕方変わり高齢者も SNS やインターネットなどの情報媒体を使わなくてはならないが、使い方についていけない。高齢者に向けての具体的な使い方の教育をしてほしい。

【永田会長】 スポーツの捉え方の問題である。勝ち負けを競うのもスポーツであり、自分で目標を設定して取り組むのもスポーツである。そういったことは、事務局が市民に向けスポーツについて説明をして理解できるような施策が必要である。この意見は、評価とは直接関係はないが、今後の方向性の一つとしてはありうる。

【加藤委員】 施策 6 のスポーツを通じたまちづくりで、刈谷キラキラ教室が中止となった代替の施策としてスポーツ教室の動画配信を行ったが、今後も続けてみてはどうか。コロナ禍でなければ取り組まなかったことであるが、動画配信を魅力的に感じる人がいればコロナ終息後も取り組んでもよいのではないかと。それもコロナ禍で学んだ一つの施策だと思う。これを方向性として引き続き継続していくことを検討してはどうか。

民間企業では、在宅勤務が進んでいる。これは、コロナ終息後も続いていくと思われる。コロナ禍だからこそチャレンジし、よいと思ったものは、コロナ収束後も続けていくまたは強化していくことも方向性の一つである。

【永田会長】 コロナ禍であってもなくても同じようにスポーツが推進されるように努力をしていく必要がある。

【事務局】 現状、感染リスクをどこまで捉えてイベントを開催するべきか中止するべきかを議論している。すべて中止ではなく、その中で何かできることはないか検討しているところである。一つの例として、かきつばたマラソン大会を中止するのではなく、オンラインでやってみようと考えている。コロナと上手に付き合

っていく中で、スポーツやスポーツイベントを市民の方々に今以上に周知する努力が必要だと思っている。また皆様からアイデアやご意見を頂戴したい。現在、スポーツは「みる」という視点が大きくなっているが、それをいかに「する」につなげていくか。それは、コロナがあろうがなかろうが重要なことだと思っている。オリンピックをみた子供たちが今後どうしたら自ら体を動かされるだろうか、興味を持ち続けられるか考えていきたい。

【永田会長】 今までの内容を踏まえた上で評価や今後の方向性について検討すること。

(2) 第3次刈谷市スポーツマスタープランの見直しについて

【事務局】資料3を説明

【永田会長】 本市の第3次刈谷市スポーツマスタープランは、10年計画であるが、国のスポーツ基本計画の第2期が今年度で終わる。そして、新たな第3次の計画が2022年以降に実施される。その内容によっては、第3次刈谷市スポーツマスタープランを見直さなければならない。新たな問題が生じれば見直さなければならないので、その時期がきたらまた事務局から提案するというところでよろしいか。議題1については、以上とする。

議事進行：永田会長、説明者：普及係長、業務係長

議題2 令和3年度事業実績及び今後の事業について

(1) 刈谷市ホームタウンパートナー事業の取り組みについて

【事務局】資料 4 を説明

【太田委員】 小中学校への取り組みは大変ありがたい。部活動でのトップ選手との交流をもっと幅広い種目で実施していただきたい。

(2) 国際スポーツ大会等の誘致について

【事務局】資料 5 - ①・②・③を説明

(3) 指定管理者選定について

【事務局】資料 6 を説明

【江坂委員】 施設が飽和状態で使えない状況になっている。他市では、2 3 号線などの高架下を多目的用途で活用している。本市でも高架下の活用をしてみてもどうか。

もう一点、施設の整備・充実においてグラウンドの雨対策など施設整備の対策を強化していただきたい。他市の状況をみてみてどうか。

【永田会長】 一点目は、スポーツに活用できる施設を見出したらどうかという意見。二点目は、雨天時の活動する場所について考えていただきたいという要望。計画の中の見直しに入れていただきたい。

【事務局】 資料 2 - ①の 3 ページ施策の今後の方向性で「既存施設の利用状況を分析し、施設の過不足や施設における利用種目、利用日時等の利用形態の見直しの検討や既存施設の増設・移転・新設の要否を検討する」と新たに記載させていただいている。利用形態の見直しをし、さらに既存施設を増改築する、あるいは新規の施設が必要なのか、市民アンケートをとって検討していきたい。

【 閉 会 】